

ほっかいどうの社会保障

2010年11月30日

北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

「国保改善運動全道交流集会」を開催 集会での学びと各地の経験を力に運動の前進を確認する！

11月28日（日）、札幌市内で「国保改善運動全道交流集会」を開催しました。集会には、全道各地から85人が参加して国保をめぐる問題について学び、全道の運動を交流し合いました。

大橋晃道社保協副会長の開会挨拶のあと、午前は講演、午後には運動の交流を行いました。

午前は、相野谷講演で国保をめぐる諸問題と国の狙い、全国の運動を学ぶ

相野谷安孝中央社保協事務局長が、『国保「広域化」の問題と国保改善運動の課題』と題して講演。

冒頭に、氏は、国保問題がこの国の焦点のひとつだとして、民主党政権の鳩山政権から菅政権への社会保障分野での変化について述べ、小泉政権以上の構造改革路線だと指摘した上で、無保険者の急増、高騰する保険料・税、高すぎる窓口負担、差押えなどの国保をめぐる情勢と国保の都道府県単位化（広域化）をめぐる問題について詳しく説明しました。さらに、全国各地の44条減免など国保改善運動について紹介し、国保と介護の問題をいっせいで地方選の争点にして運動をすすめようと呼びかけました。



午後からは、道内各地の運動の交流を行う

最初に、吉岡恒雄事務局長が、基調報告～『「国保調査」で明らかになった実態と私たちの運動』を行いました。調査結果から判った様々な実態、問題点を挙げて、保険料引き下げの運動、保険証取り上げを許さない運動、国保料の強制徴収をやめさせる運動、減免制度の活用などについて提起、道内各自治体での行政への提言・要望・自治体要請行動など国保改善運動を呼びかけました。

その後、三氏から特別報告を受けました。

岩淵裕氏（釧路民商事務局長）が、釧路市と中標津町の「国保基金」を取り崩して保険料・税の引き下げを実現させた運動について、真嶋隆英氏（旭川・上川社保協事務局長）が、旭川市の一部負担金（44条）減免を大きく前進させた運動について、佐藤宏和氏（道生連事務局長）が、国保料・税の分納・猶予・差し押さえなどのたたかいについて報告しました。



岩淵裕氏



真嶋隆英氏



佐藤宏和氏

フロアからは、短期保険証の留め置き問題や1ヵ月期限の短期証が大量に発行されていることでの市との交渉について（根室社保協、高橋さん）、建設工事業国保の問題とこの間の対応（札幌東部民商、中沢さん）、保険証の留め置きが常時千世帯を超える中で新型インフル時に全件交付をした追跡調査で「留め置きが受診抑制にはならない」という根拠が崩れたこと（帯広市議、稲葉さん）、ハローワーク前で失業した人の保険加入状態に関する調査で7名の無保険者がいたこと（帯広市議、佐々木さん）、季節労働者と国保の調査結果（建交労、俵さん）、運動を団体が一緒になって中広く取り組むことの重要性（名寄市、中田さん）、旭川市での保険料引き下げの運動（旭川民商、石田さん）、予告なしに大学納付金を差し押さえられ交渉で取り戻した例（道生連、細川さん）、調査で24人の子どもに保険証が渡っていない事への対応や44条減免の取り組みをすすめる（名寄市議、川村さん）、滝川市で起きた年金差押えのたたかい（空知民商、橋場さん）、福島町での77条減免の運動（道生連、岡崎さん）など生々しい実態とたたかいが報告されました。

最後に、渡部務年金者組合道本委員長が閉会の挨拶をして集会を終えました。

「国保調査」の記者発表を行う

11月29日（月）に、道政記者クラブで道社保協が行った「国保調査」について記者発表を行いました。道社保協からは、吉岡事務局長、甲斐副会長、渡部事務局長次（年金者組合道本委員長）が参加しました。

